

松山市教育会情報

発行所 松山市教育会
松山市祝谷町1-5-33
☎ 089-933-0354
発行者 亀井 壽一
編集 調査研究部

人との関わり



副会長
関谷 芳郎



—山頭火と松山—「ふるさと松山学」挿絵より

副会長という大役を任されてから3年目になる。振り返ってみれば、私の力不足であったり、市の支援センターで相談活動をしていて、会に出席できなかつたりして迷惑をかけっぱなしの副会長である。そろそろきちんとお世話ができる人に引き継ぐのが一番よいと思い始めている。

さて、支援センターで相談活動をしていると、想像以上に人と人との関わりに悩む人が多いことに驚く。これは親も子も同じである。先日、内外教育を読み、“人との関わり”について感じたことを述べてみたい。文科省や世間（親たち）はゆとり教育の反省に立って“学力重視”に方向転換をしてきている。しかし、社会の流れを思い返してみると2008年の秋に「リーマンショック」が起り、そこから「派遣切り」「内定取り消し」「リストラ」などで若い働き盛りの青年の生活が脅かされだし、不安定な雇用と低収入で結婚ができず家族もつくれないう状態になってきている。我々の時代は好む好まざるにかかわらず家族、地域、会社といった集団や組織に組み込まれた中で人間関係を構築し、生活してきた。極論にはなるが、今は地域のつながりが薄くなり、会社が正規雇用を控え、自ら家庭がつくれないう状況で、若者たちはどう生きればいいのかということを考えなければならない時代に入った。

だから、これからの社会を生き抜く若者（子どもたち）には、自分自身の力で“人間関係のネットワーク”を築いていくしかないように思う。学校では学力をつけることはもちろん大事である。でも学力だけで生きていける時代ではなくなっている。今学校では、コミュニケーション能力の育成に力を入れている。そして、小学校にも英語教育が入ってきた。学校教育には“人間関係の構築”を根底に据えたコミュニケーション能力の育成が行われなければ生きていけない時代が目前まで来ていると考えるのは大げさであろうか。

また、3月11日の“東日本大震災”によって、人と人がつながるネットワークの重要性を社会全体が意識し始めた。東北三大祭りや花火大会などを行うべきか見送るべきかの話し合いから実行まで議論をして実践した。そして、地域の人々の心を前向きにして、復興している。身内を亡くし、隣人との関係を保たないと生きていけない状況に置かれて起こした行動である。

愛媛も東南海地震や南海地震が起り、東北3県と同じ状況になるかもしれない。地震・津波対策を考えさせることはもちろん大切だが、学校や地域で行う教育活動を通して、若者や子どもたちに“自らが人間関係を構築する力”をつけることが本当に「生きる力」を育てることにつながると強く思うようになってきた。

平成22年度 教育功労者

松山市教育会

感謝



森貞 和雄

この度は思いがけなくも栄えある教育功労者賞を賜り、深く感謝しております。退職後、約20年になります。現職中は中学校の理科教育、小学校の校長として勤務させていただきました。退職後は県校長会事務局、さらに、地元の幼稚園、公民分館長、子どもの育成事業などに微力を尽くして参りました。その間、多くの方々にご支援をいただき、今日を迎えることができましたことに深く感謝しております。

平成9年に完全自由人となり、セカンドライフの一助にと「オカリナ」「水彩画」「川柳」「短歌」を始めました。しかし、どれも難しく、現在は川柳と短歌に励んでおります。川柳も短歌も同好会があり、月1回の会を楽しみに、作句、作歌に励んでおります。短歌は愛媛新聞に投稿し、入選を楽しみにがんばっております。平成17年に手術を受け、その後も体力は戻っていませんが、なんとか頑張り、地域の諸活動に積極的に参加し、微力ながら励んでおります。

最後になりましたが、この度の受賞にあたり、支部長さんをはじめ、ご支援いただきました関係各位に深く感謝いたします。今後も、教育会のますますの発展を心より祈念し、お礼とさせていただきます。



中須賀 直人

道徳教育に携わって

この度は目立った業績もない私が教育功労者表彰をしていただいたこと、誠に身に余る光栄と恐縮している次第であります。関係者並びこれまでご指導・ご協力いただいた方々のお陰と深く感謝いたしております。

受賞については、平成21・22年度文部科学省道徳教育実践研究事業並びに平成22年度中学校四国道徳教育研究大会会場校として指定を受け、道徳教育に携わり、校長先生を中心に内宮中学校の教職員が協力して研究推進を行った成果の代表として受賞したと思っております。2年間の実践は、道徳の時間を要として取り組みました。その結果、内中チャレンジ5A（汗、あいさつ、後始末、あきらめない心、ありがとう）として掲げた具体的実践活動が体験活動と結び付き、多くの成果をあげました。校内でのメニューフラワーズ計画による花作り、地域との連携による海岸清掃や校区内清掃とボランティア活動などがあります。こうした生徒の成長は、子どもは「地域の宝」という保護者・地域など協力・連携する支持的風土が内宮中校区にあったこともその要因の一つであります。

私自身、現在に至るまで数多く道徳教育の推進に関わることができ、自己研鑽を深める機会を得たことに喜びを感じております。

最後になりましたが、ご推薦いただきました関係各位に感謝しお礼としたいと思います。

松山市教育会 松山市教育研究協議会 合同 教育研修会

平成23年8月4日 エスポワール愛媛文教会館

第1回教育研修会が、松山市教育研究協議会と共催で行われた。講師として、松山市消防局 防災対策課 災害対策指導監 鳥生幹雄（とりう みきお）先生をお招きし、「災害に強くなるための方策」と題してご講演いただいた。

鳥生先生は、陸上自衛隊入隊後、防衛大学の教官、徳島県の危機管理局 企画監を経て、現職に就かれた。過去の山林火災や地震等災害地区に赴いた経験を生かし、自主防災組織の講習会・研修会等の講師として現在ご活躍されている。

東日本大震災が我々にもたらした教訓とはいかなるものか、会員にとって大変興味深い講演内容だった。主な内容について、以下簡単に紹介しておく。



I 南海地震に備える

南海地震 100年から150年の周期で発生。今後30年以内に60%程度の確率で発生すると言われている。

【防災対策や地震発生時に気をつけること】

- 震度6級でも倒壊しない建物にすることが最大の防災である。*耐震改修
- 家具の転倒防止をする。
- 寝室に物（テレビ等）を置かない。
- 枕元に「靴（スリッパ）、軍手、懐中電灯」を常設しておく。
- 「緊急地震速報」で事前に情報を知る。
- 隣近所で助け合い、自主防災活動を活性化する。*防災訓練への参加等
- 耐震性の高い住居・学校の場合は倒壊の危険が少ないので、あわてて外へ出ない。
- 瀬戸内海は海が浅いため、破壊力のある津波は想定されていない。
- 重信川・石手川の堤防の破壊や液状化の恐れがある。

【災害に強くなるためのポイント！】

「自然」を意識した生活をする。

- 日出・日没の時刻
- 満潮・干潮・大潮・小潮
- 天気予報を見る習慣



II 風水害に備える

【対応と避難に関する留意点】

土砂災害

- 家の裏が崖の場合、累積雨量が100ミリを越えたら自分の判断で避難する。
- 「土砂災害警戒情報（大雨により、土砂災害の危険性が高まった場合に県と気象台が共同で発表する防災情報）」に注意する。

洪水

- 夜避難勧告が出たため、避難していて側溝に流されて犠牲者が出た例もある。自分の状況を鑑み、避難するべきか自宅にとどまるべきか、適切に判断することが大切である。

重信川・石手川の氾濫

- 重信川・石手川が氾濫すると、濁流が急激に押し寄せ、木造住宅を破壊する恐れがある。浸水想定区域内の住民は避難が必要である。

内水浸水

- 内水浸水は徐々に水位が上がり、家を流すほどの破壊力はないが、床上までの浸水が予想される場合は、2階へ避難する。
- H13年、浸水被害の大きかった10地区で浸水対策事業（排水ポンプ設置等）が行われている。

高潮

- 自宅の標高を知っておく。
- 「情報」を収集する。
（消防局・気象台のHP）
*満潮と台風接近が重なった場合等

地形を見る目を養い、気象情報に強くなる！

第4回 教育講座①(基礎研修講座)

平成20年度にスタートした教育講座も、参加者の好評を得て4年目となりました。中でも、石丸淳先生は3年連続の講師となりました。「石丸ファン」の声に押されて、ご多用にも関わらず、快く講師をお引き受けいただきました。今年度は、昨年度の「学級経営論」の続きが聞きたいという要望を受けて、「学級経営力を考える(その二)」と題してご講演いただきました。

石丸淳先生の略歴

大学卒業後、県下中学校に勤務する。途中、県総合教育センターに5年間勤務した後、再び中学校で勤務。その後、小学校長を経て、松山教育事務所指導課長、続いて県総合教育センター教科教育部長として勤務し、退職する。

主な著書に『あれる教室をつくらない実践的学級経営』『教育現場で考える教育する心10の視座—あなた、覚悟はできていますか—』などがある。



昨年度の振り返りから

「学」も「教」も、語源は「交流」である。指導は、子どもたちの「内なる思い・願い」に触れるところから始まる。

教育とは、子ども一人一人に豊かな「かかわり」の世界を構築することである。まず、教師が豊かにかかわらなければならない。

今年度の中心的内容「経営の根本は『問題意識』である」

1 柱を考える 【「何が柱か?」「柱の中心(重点)は何か?」】

■ 柱1「学習づくり」

(1) 分かる・できる・楽しい授業づくりの努力

$$\text{授業力} = \text{子ども理解力} \times \text{教材解釈力} \times \text{指導技術} \times \text{情熱}$$

(2) 基本は「聞く態度」の確立

聞く力は人間関係構築力であり、つまり生きる力そのものである。積極的な聞き方の基本を教える。積極的な聞き方の基本態度は、①他の活動を止めて、相手を見る。②集中して相手の言うことを理解する。③話に関係のあるコメントをする。④よい質問をする。

(3) 点(ペーパー)の取れる授業をする。

(4) 音・美・技家が大事にされている。

(5) 遅進児の補習体制ができています。

(6) 学習の最大の障害は、笑われる恐怖である。→間違えることの価値を説く。

★ 正解だけを褒めていないか?

■ 柱2「儀式・行事をバネに成長する」

集団指導は厳しく、個人指導は幅をもって行う。
集団指導は、その学校・学年・学級規範を決定する。

感動と涙のある学校行事を。そのためには、①子どもを主役にする。②教師ももえる。③まずは、全員参加が大事。④練習を大切にする。⑤はじめ・マナー・ルールを学ぶ。

■ 柱3「生徒指導はプラス発想で」

集団規範の質を見つめていないと生徒指導は成立しない。



2 指導力を伸ばす：「説得力が指導力の要である」

- サンドイッチ型で叱る
- 相手の態度認知の方程式
- 力のある言葉を大事にする
- 好意・好感の目をもつ
- 一般的に語らない、自分の生き方で語る
- 私、我々メッセージで語る
- 心理的な空間感覚も大切

3 講話に出てきた「数式・法則」など

- パートレの法則：原因の20%が結果の80%をもたらす。
 - ・製品の20%が利益の80%をもたらす。・顧客の20%が苦情の80%を言う。・・・
- 相手の態度認知の方程式
 - ・言語メッセージ=7% ・声の調子=38% ・顔の表情=55%
- 心理的空間：(単位cm)
 - ・親愛ゾーン→0~5
 - ・個人的距離→50~120
 - ・社会的な距離→120~350
 - ・公的な距離→350~700

参加者の声

- 「学」と「教」はともに「交流」という意味が込められているというお話に共感した。「学ぶ」ことも「教える」ことも教師と子ども、子ども同士の交流で成り立っていなければならない。それは知識や技能、思いや考え方の交流であるのみならず、心の交流がなければ本物ではないと気付かせていただいた。
- 目の前のことをとにかく処理し、多忙感に押しつぶされそうな毎日だが、その中で「教室はまちがえるところだ」の詩を教室の前面に掲げて「間違いから学ぶ」ことを大切にしてきたことや、椅子を入れる、整理かごの整頓を定期的にする、みんなで10個ずつゴミを拾うなどの「小事を大切に」してきたことが、間違いではなかったことを確認できて嬉しかった。ただ、まだまだ問題意識が足りない。小さな日常を大切に積み重ねることと、大きなスパンでどう集団を育てていくかという視点をもってこれからも学級経営をしていきたい。

(味生第二小学校の先生方より)

私自身、「実践をくぐらせた『理論』こそが、現場教師のバイブルとなる。」常々この言葉を自分に言い聞かせてきましたが、これはまさに「石丸理論」に行き着くものでありました。2時間足らずの講演ではありましたが、これだけ多くの実践理論がわき出る先生の講演を、この紙面でまとめるには力不足でした。やはり、直に先生のお話を聴くことをお勧めして、教育講座の報告といたします。

第4回 教育講座②(基礎研修講座)

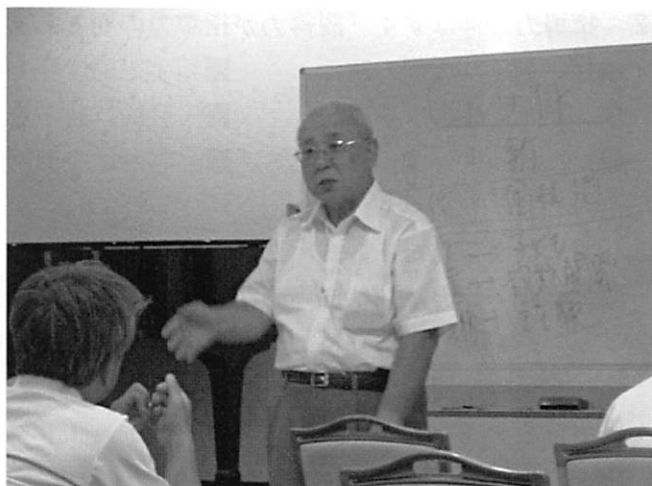
松山市教育委員長の金本房夫先生を講師にお招きし、基礎研修講座『鳥は真空では飛べない』と題して、多忙の中ご講演をしていただきました。

8月12日(金)は、まだまだ日差しが強く暑い日となりましたが、新任の先生からベテランの先生まで多くの先生方にお集まりいただき、文教会館の4階寿の間は60人を越える受講者で溢れていました。

金本房夫先生の紹介

昭和17年中島生まれ、昭和40年に中島で社会科教師を務める。県教育委員会指導主事、松山教育事務所長として教育行政に9年間携わった後、再び島の母校の校長を務める。退職後、中島町教育長。松山市との合併後、現在に至る。

『一洵がゆく』『島から考える教育』『碧地に吹く風』など多数の著書がある。



1 はじめに

現在、私が国語の教師として授業をしたとすると、短歌の教材として『震災歌集』(長谷川権)を使いますね。『人々の嘆きみちみつるみちのくを心してゆけ桜前線』など涙なくしては読めない短歌集です。まず教師は教師自身が子どもたちに「このことを伝えたい」という熱い思いを持っているか、その思いを持つことこそが教師最大の資質であると思っています。

2 教師の理想像

今日の私があるのは、私が教師の理想像としている『岡田誉先生』のおかげだと言えます。中島で美術の先生として助教諭を命じられずっと高卒資格で、詩と俳句を好み、誰よりも多く本を読んだ人物です。その先生とはこんなエピソードがあります。今だから言える話ですが、私が学生するとき先生から日本酒を飲まされ、「どうだ」と聞かれ、「辛いです」と答えると、「人生あまい辛いがあってこそ人生だ」と言われたのをよく覚えています。「美術のいい先生が中島にいればそれでいい」といいながらそのほとんどを中島で過ごされた先生でした。先生から私は、ひとつの殻にこもらず、誰よりも多く学び続けることの大切さを学びました。

3 鳥は真空では飛べない

「鳥は真空では飛べない」これは、実存主義者のサルトルの言葉ですが、このことは教育におい

とも言えると思います。今の教育とは余計なものの障害物は取り除き、自由にのびのびと子どもを育てればよくなるという、善人説に基づいて行っています。しかし、自由にのびのびとではなく子どもたちに抵抗物を与えなければいけないのではないかと思います。例えば、発問についても、一つの発問で多くの答えの出るものがよい発問と言われることがあります。私はある程度の抵抗感のある発問がよい発問であると思います。

4 教育における距離の問題

最近の教育では、一段上から語るのではなく、肩を並べてのびのびと学びあうことがよいとされてきました。先日ワールドカップで優勝した、なでしこジャパンの選手のように監督に対して「のりおさん」でもよいのかもしれませんが、このことが教育の全てではないと思っています。日本の女子バレーボールが東洋の魔女と呼ばれたときの「大松博文監督」と、なでしこジャパンの「佐々木則夫監督」と、この両方の立場が教師には必要で、重要なのはバランスだと思っています。

近年でのコピーライターの失敗は「友達のような先生」「友達のような親」と語ってきたことであると思います。それが必要な場面もあると思いますが、やはり「毅然とした生き方を示す教師でなければならない」「いけないことはいけないと言う」このことは忘れてはいけないと思います。

5 苦っ楽しい学校

以前、中島中学校では3年生を夏休み中に補充学習強化合宿として1日14時間勉強をさせました。今は5時間と聞いていますが、寮生活という集団でやると集団心理が働き可能になります。このように妥協することなく子どもに「しんどさ」を経験させることが大事で、大きな喜びを味わうためには束縛されるということが必要です。ちなみに合宿最終日には、みんなでバーベキューを行い、喜びを分かち合います。束縛があるからこそ解放されたときの喜びには大きいものがあります。子どもたちに寄り添い、子どもたちに迎合するだけが教育ではないのです。「苦っ楽しい学校」を目指すことこそが大切なのです。子どもにとっては「しんどさ」の経験が、今後挫折したときの支えになるはずです。

6 おわりに

私は「子どもが育つ学校」がいい学校なのだと思います。教科書だけでは子どもは育たない。道徳や特別活動も全ての教育活動において生きる力を身に付けさせなければいけない。教えることをためらってはいけない。言われなければ分からないことを教えることが教育です。今後とも魅力的な子どもが育つ教育をぜひ行ってください。



講演内容から、金本先生の深い教養、温かい人柄、ユーモア、教育に対する情熱を感じることができました。受講者の熱心に聞き入る姿が見られ、「教師」「教育」「学校」のあるべき姿を再確認することのできる講演となりました。

ブロック編成

区名	学 校 名	区名	学 校 名
1区	番町小、味酒小、八坂小、東雲小、清水小、姫山小、勝山中、東中	5区	堀江小、潮見小、久枝小、和気小、みどり小、鴨川中、内宮中、北中
2区	新玉小、雄郡小、素鷲小、桑原小、たちばな小、双葉小、拓南中、雄新中、桑原中、城西中	6区	湯山小、日浦小、道後小、湯築小、伊台小、五明小、道後中、湯山中、日浦中、旭中
3区	味生小、生石小、垣生小、余土小、味生第二小、さくら小、津田中、垣生中、余土中、西中	7区	浮穴小、石井小、荏原小、坂本小、椿小、石井東小、石井北小、久谷中、南中、南第二中、椿中
4区	三津浜小、宮前小、高浜小、興居島小、怒和小、津和地小、中島小、三津浜中、高浜中、興居島中、中島中	8区	久米小、小野小、北久米小、福音小、窪田小、久米中、小野中
		9区	浅海小、難波小、立岩小、正岡小、北条小、河野小、粟井小、北条北中、北条南中

ブロック紹介

初めてのブロック懇親会

第6ブロック理事（湯築支部長） 矢野 肇

第6ブロックは、道後中（道後小・湯築小）、湯山中（湯山小）、旭中（伊台小・五明小）、日浦中（日浦小）の校区からなる地域である。いわゆる道後地区は、街から山間部まで風光明媚な地域であり、どの学校の児童生徒も穏やかですくすく成長している姿が見られる落ち着いた地域である。

7月23日（土）に道後の友輪荘で念願のブロック懇談会が開催できた。4つの各支部では総会など年に1度は開き会員同士の交流はなされているが、地域をブロックに広めての交流会を初めて計画した。まず、4支部（道後・湯築・湯山・伊台）の支部長さんをお願いして、各支部の会員に「第6ブロック懇親会」の開催を知らせてもらい、参加できる方の応募をした。その結果、湯築支部5名、湯山支部4名、道後支部3名、伊台支部1名、合計13名が参加された。今回は初めての試みなので教育会OB会員のみとした。懇親会は、最初に自己紹介をし、各支部の活動などを話し合っ情報交換をした。続いて、懇親会に入り、酒を酌み交わし、話題は今の教育のこと、懐かしい自分たちが歩んで来たことなど幅広い話げできた。会員は、80歳代の大先輩から今年新しく入会された若い会員まで幅広い年齢層であり、本当に和気あいの雰囲気の中で、有意義なひとときが過ごせたと、みんな感想を述べられていた。この会場である友輪荘は道後温泉を引いているので、早めに来て温泉に入って会が出来たらいいなという意見も出て、来年もこういう会をもって、再会しましょう、それまで元気でいましょうとそれぞれ別れた。各支部長さんのおかげで、開催できたことを感謝している。来年も輪を広げて実施したいと思っている。人と人とのつながり、絆の大切さを実感した次第である。また、現職の先生との交流もしたいと考えている。

囲碁大会

開催期日

平成23年7月24日（日）

開催場所

エスポワール文教会館

参加人員

21名（現職0名、OB21名）

和気あいでありながら、真剣に対局を行った。本年度は、実力伯仲で接戦が繰り広げられた。各級ともに優勝の行方は最後まで混沌とし、参加者の日頃の精進ぶりが伺えた。

成績

	優 勝	準優勝	第3位
上 級	真部 明雄	玉井 幹夫	高須賀嘉夫
中 級	馬嶋 治男	橘 正年	加藤 通邦
初 級	山田 眞昭	池水 公則	平松 則重